

女性職人町工場に活力

大田区の町工場で、女性の起用に
よる「脱3K(きつい、汚い、危
険)」の取り組みが進んでいる。

「男社会」だった製造業の現場に女
性が加わることで、職場環境の改善
や、若い男性の雇用増に効果を上
げているという。専門家も「製造業復
活の起爆剤に」と期待を寄せる。

職場明るく一新

雇用増に効果

大田



大田区萩中の「南武」
(社員92人)は、自動車メ
ーカ―や鉄鋼メーカー向
けに特殊な油圧シリンダ
ーを製造する中堅企業。
7年前から製造現場に若
い女性を起用している。
六つある工場のうち、
規格品を扱う第5工場の
主力は19〜24歳の4人の
女性。全員が地元・蒲田
女子高校の運動部出身
だ。コンピュータにデー
ータを打ち込んで金属を
加工する「NC(数値制
御)工作機」を操り、重
さ数十kgの鉄や合金の塊
を削ってシリンダー用の
部品をつくる。

「体力には自信があっ
たけど、機械に関しては
全くの素人だった」と話
す女性職人第1号の武内
麻美さん(24)は、元バス
ケット部の副主将。事務
職志望のほが、現場に
誘われ「体を動かす方が
性に合っているかも」と
その気になった。油の
においやツメが汚れる金属
カスに最初は抵抗があっ
たが、「一から製品を作
り上げる過程が楽しい」
とのめり込んだ。
女性職人の雇用は、英
国商社の日本法人で長年
働いた後、創業者の父を
継いだ野村和史社長(66)
の発案だった。若い人が
製造業から離れた原因の
一つは「3K」のイメージ。
そこで女性の起用を
機に職場環境を改善し、
「脱3K」に乗り出し
た。金属片やゴミで覆わ

「新ちゃん、小児科の
薬、どうすんよ」。ここ
のころ島言葉を勉強中の
後輩の田辺康宏医師。「子
は何人帰ってくっかねー」
と私も負けじと応える。
新学期から三宅島に子供
たちが帰ってくる。昨年10
月に避難指示中の三宅島に
赴任してから約半年、買
物をする母親に寄り添う子
供を一度見かけただけで、
子供の姿を見ることはほと
んどない。小児用の薬剤は



三宅島から

島の宝に託す未来

封が閉じられたまま……。
もともと島内は子供たち
であふれていた。島つ子た
ちは大自然の中、島民たち
の愛情で我が子のように育
てられ、そして守られてい
た。まさに島の宝物。
4年半の避難生活で三宅

子供たち

の子供たちは、都会の生活
に順応したのだろうか。ラ
ンドセルに警報プザーをぶ
ら下げ、常に門が閉ざされ
た小学校に戸惑いもなく通
っているのだろうか。都内
や体に今後どう影響するか
は計り知れない。
しかし、子供のいない島
に未来はないことも事実
だ。島民たちは何度となく



新藤 克之

のこす知らない子供も
いるだろう。
島に子供があふれる姿を
望む半面、島に帰ってきて
欲しいと簡単にいえない現
実がある。帰りたいけど住
める。育
るホイ
ューの
わくす
や学校
多くな
彼らと
ちを守
ていき
三宅
が一緒
たスズ
たくま
る。

一度の誕生会など社内交
流も活発で、何組もカッ
プルが誕生したという。
ものつくり大学の平井
聖児・助教授によると、
製造業の現場ではここ数
年、女性の採用が進んで
いるという。「工場のハ
イテク化が進み、かつて
の3Kではなくなった。
給料が安定し、スキルも
磨けるとあって、今後も
女性は増えるだろう。職
場に女性がいることで、
男性を呼び戻す効果もあ
る」と話している。

コアジサシ
戻ってきて
ボランティア募集
03年に1600羽のコ
アジサシ(英名はリトル
タイン)の巣立ちが確認
され、国内最大級の繁殖
地となった大田区昭和島
の都森ケ崎水再生センタ
ーの屋上。昨年は雑草が
育ち、裸地を好むコアジ
サシに敬遠され、1羽の
巣立ちもなかった。保護
団体「リトルタイン・プ
ロジェクト」が今年は多

くのコアジサシを呼び戻
そうと環境整備のボラン
ティアを募集している。
コアジサシは体長約30
cmのカモメ科の渡り鳥
で、4月ごろオーストラ
リアやニュージーランド
から飛来、子育てをして
9月ごろ、日本を離れる。
今回は草取りや砂利を
敷く作業のほか、ヒナを
守るシェルターの設置な
どをする。20、21、26、
27日と4月2、3日の6日
間で、半日の参加も可能。
1人1日50円の保険加